

令和5年12月19日

実施報告書

文部科学大臣 殿

申請者（主催者代表）

団体名 独立行政法人国立美術館

代表者職・氏名 国立新美術館長 逢坂 恵理子

展覧会における美術品損害の補償に関する法律に基づいて令和5年9月24日に文部科学大臣と美術品補償契約を締結した展覧会が終了しましたので、実施報告書を提出します。

1. 開催概要

展覧会名	ルーヴル美術館展 愛を描く	
開催施設名	会期	入場者数
国立新美術館	5 年 3 月 1 日～5 年 6 月 12 日	45.5 万人含む (開会式・内覧会含む)
京都市京セラ美術館	5 年 6 月 27 日～5 年 9 月 24 日	28.8 万人 (開会式・内覧会含む)
●開催概要 本展は、西洋社会における様々な愛の概念が絵画芸術にどのように描き出されてきたのか、ルーヴル美術館の膨大なコレクションから精選された 73 点の絵画を通して紹介。16 世紀から 19 世紀半ばまで、ヨーロッパ各国の主要な画家による愛の表現を通覧した、これまでにない趣向の展覧会となった。 新型コロナウイルスが 5 類へ移行した 5 年 5 月 8 日以降、東京では日時指定制を解除。東京展は当初の入場者見込みを大きく上回る 45.5 万人が来場。京都展も夏の猛暑の中、日時指定制を継続しつつも、当初見込みを上回る 28.8 万人が来場した。特に、東京、京都ともに SNS 戦略を図ることで、美術愛好家はもちろんのこと、10 代、20 代の来場者が多く美術館へ足を運ぶ結果となり、幅広い年齢層に鑑賞の機会を提供することができた。 来場者の展覧会の満足度は高く、東京展では 90%以上が展覧会の内容を「とてもよい」、「よい」と回答し、京都展でも 82%以上が、5 段階評価の「5」と「4」を選択する評価を得た(各会場実施のアンケート集計結果より)。		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

① 観覧料の無料化・軽減等

東京展

高校生無料観覧日の設定

3月18日(土)－3月31日(金) 春休み期間中 12 日間で、6,020 人の高校生が来館。

無料化された入場料 1,000 円×6,020 人＝602 万円(申請時想定額 200 万円)

京都展

小学生無料観覧日の設定

7月8日(土)、9日(日)、15日(土)、16日(日) 4 日間で、541 人の小学生が来館。

無料化された入場料 1,000 円×541 人＝54.1 万円(申請時想定額 100 万円)

② 展示作品の質・量の充実

補償制度利用による経費の軽減を一部充当することで、ルーヴル美術館の寄託作品(フランソワ・ブーシェ 《プシュケとアモルの結婚》 ルーアン美術館)、かつての寄託作品(クロード＝マリー・デュビュッフェ 《アポロンとキュリパッソス》 カルヴェ美術館)の計 2 点を借り受けることができた。これにより、展示作品のより一層の充実を図ることができた。

実績額:410 万円(申請時想定額 410 万円)

③ 教育普及活動の充実

東京展 ジュニア向けの小冊子を作成し、会場にて 25 万部の無料配布を行った。見どころをわかりやすく解説することで、主に中学生以下の来場者へ向けて鑑賞の手引きとなった。

実績額:165 万円(申請時想定額:140 万円)

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

当初、補償制度対象の作品 72 点、補償対象外 2 点の計 74 点の出品を予定していたが、ルーヴル美術館内で輸送直前に行われた作品の最終点検時に、1 作品が輸送に耐えられないことが判明した。文化庁担当者へ報告をするるともに対応を相談し、補償対象作品 71 点、対象外作品 2 点の合計 73 点で展覧会を実施することとした。

4. 安全配慮に関する特別の対応

開幕の 7 ヶ月前にルーヴル美術館の監修者が各館を訪ね、展示図面の確認を始め、鑑賞空間の確保、搬入経路の確認など、各美術館と事前の安全確認を行った。

作品点検、展示、撤収作業では、ルーヴル美術館の担当者が常に立ち合い、安全確認を徹底した。ルーヴル所蔵以外の一部作品は、現地所蔵館とオンラインでつなぎ、点検、展示、梱包まで直接確認の上、作業を進めた。各会場とも会期の半ばに、保存修復家による作品の中間点検を実施し、作品の状態把握につとめた。

日本側監修者・国立新美術館の宮島主任研究員が、巡回先である京都展の展示にも立ち会い、東京展の展示で得た知見を、京都展へと伝え情報の共有ができた。

作品返送時の空港上屋では、パレットサイズ後の作品に警備員を配置し、貨物積込までの間、監視体制を整えた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

本制度の適用により、ジャン=オノレ・フラゴナール《かんぬき》、フランソワ・ジュラル《アモルとプシュケ》など、ルーヴル美術館から「愛」をテーマに数々の名品の来日を実現した。西洋社会における「愛」の表現を紐解く、これまでにない企画の展覧会は、幅広い年齢層が足を運ぶ結果となり、国民へすぐれた美術鑑賞の機会を提供できたと考えている。

京都展では開催時期が夏だったため、来場者の美術館外での長時間待機を避け、展示室内の展示環境を整えるため、8 月 1 日～閉幕の 9 月 24 日まで、通常の 10 時開館を 1 時間前倒した。その結果、来場者分散となり、一定の効果が認められた。

6. 展覧会の収支決算書

主催者 東京展:国立新美術館、日本テレビ放送網、読売新聞社、BS日テレ、ニッポン放送
京都展:読売テレビ、読売新聞社、キョードー、京都市

●収入

区分	決算額
展覧会収入・その他収入	178,346
収入総額	178,346

●支出

(万円)

区分	決算額
企画準備等基本経費	95,986
設営・運営等会場関係経費	82,360
支出総額	178,346